

V 自己点検・評価報告書の作成にあたって

本報告書の執筆・編集は、以下の「記述のルール」に則っている。閲読に際して留意いただければ幸いである。

1. 記述は原則として小項目ごと

記述は原則として小項目ごと（大学基準協会の評価項目ではカッコで記された細目ごと）としたが、内容が細分化するのを防ぐために複数の小項目をひとまとめにして記述している場合もある。

2. 目標に即した評価

今回の「新たな自己点検・評価」においては、従来の自己点検・評価とは異なり、目標を設定し、その目標の達成度を測ることを基本的姿勢とした。目標の設定は、2004年度に、大学第3次中長期計画の初年度である2003年度に遡って、原則として評価項目ごとに行い、大学執行部が全学的な視点から、学部・研究科などが個別的な視点から設定した。

目標の達成期限は大学第3次中長期計画期間の2010年度までとしたため「現状の説明」「点検・評価の結果」は2003年度から8年の期間で設定した目標について、その3年目段階での進捗状況を自己点検・評価するという形式をとっている。

3. 記述内容について

「現状の説明」は、2005年5月1日を基準とし、2003年度、2004年度および2005年4月末までのことを中心に記述した。「点検・評価の結果」は、「現状の説明」に対して担当部局自らが評価できる点や問題点・課題などを、「改善の具体的方策」には、「点検・評価の結果」で浮き彫りになった問題点や課題に対する改善の方策を具体的に記すとともに、2005年5月1日以降に改善が進んだ点などについても追記している。

項目によっては、「現状の説明」「点検・評価の結果」「改善の具体的方策」の記述内容が相互に交錯している場合も少なくないが、3つの内容をどの項目においても必ず言及するよう心がけている。